

令和4年度 第3回 学校サポーター会議

開催日 令和5年 1月13日(金) 10:00~12:00

場 所 福岡市立南福岡特別支援学校

令和4年度 福岡市立南福岡特別支援学校サポーター委員

堺 裕 様 (帝京大学 福岡医療技術学部 教授) (当日欠席)
本荘 哲 様 (国立病院機構 福岡病院 臨床研究部長)
加治木 ちさ子 様 (福岡市立あゆみ学園 園長)
石橋 昌和 様 (自立の里大地 支援課長)
岡本 恵利美 様 (福祉作業所 otto 代表) (当日欠席)
上野 政子 様 (月隈公民館 館長)
阿比留 眞弓 様 (隅田町町内会 会長)
因幡 那水 様 (PTA会長)



会次第

- 1) 学校長あいさつ
- 2) 授業参観
- 3) 意見交換 (本年度の総括等)

今回は、まず授業参観を行い、その後「学校評価報告書」をもとに、学校サポーター委員の皆様へ、本年度の総括をしていただきました。

意見交換冒頭で、学校長より学校教育活動の報告を行いました。今年度も、新型コロナウイルス感染症の影響で、実施できなかったことがたくさんあったこと、そんな中においても、『「遠隔で操作する分身ロボットおりひめ」を使ったカフェ』への参加や、高等部バザーの実施など、新しいことやできるようになったことに、取り組み始めていることが、報告されました。

また、PTAや教職員に行った「学校評価アンケート」の結果のグラフの概要説明も行いました。

意見交換会(本年度の総括)では、次のような意見等がサポーター委員より出されました。

○先生と児童生徒が美術や図工の作品を制作するのを見て、「先生と児童生徒の共同作業だが、子どもたちのことをきちんと理解し、しっかりと作品に個性が反映されている」と感じた。

○きょうだい児も本校のことが好き。学校に安心できる雰囲気があるから。このような学校を、高校生や大学生にも知ってほしいし、そのことが、わが子が安心して暮らせる世の中づくりにつながっていくと思う。

○学校は ICT の活用がとても充実しているし、ICTは「できないこと」を「できること」にする、ものすごい力があると感じている。しかし、ICTに頼りすぎている面もあるかも。「習字」や「リンゴ狩り」の授業などを見させていただき、『体験』『体感』する学習もとても大切であり、そのバランスが大事なのかなと感じた。

○現在は、昔に比べると「多様性」を受け入れる社会になってきた。また、先生方の児童生徒への丁寧なかかわりは「心の余裕や優しさ」につながっているし、そのことが世の中に役立っていると思う。本校のことを、よりみんなに知ってほしい。

○習字や創作活動は、学校でしかできない活動だなと感じた。また、「おりひめカフェ」や「マラソン応援横断幕」「交流」は、大事な啓発運動であると感じた。

○子どもたちの笑顔や笑い声がいつも聞こえる。先生と子どもたちのコミュニケーションの掛け合いが、とてもスムーズになってきていると感じた。心同士がつながっているなあと感じた。

○コロナ渦にありながらも、学校が努力している成果として、保護者より「安心・安全」で高く評価されていることにつながっていると感じた。

今年度も、学校サポーター委員の皆様に、しっかりと学校を支えていただきました。本当に、ありがとうございました。

(文責 : 教頭 阿部 一行)